

寿大学実務講習会の「ボランティア実習」を担当しています

平成24年度*いこま寿大学の学生を対象とした実務講習会の「ボランティア実習」の企画運営をららポートが担当しています。



【カリキュラム】

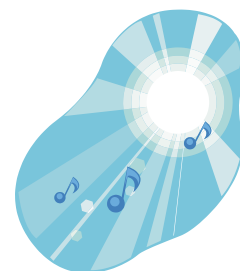
第1回目	講座とボランティア実習紹介、調整	
7/10 (火)	<p>【ボランティアに必要なコミュニケーションスキルの講習】 ボランティア活動概論とコミュニケーションスキルについて実習をまじえて行いました。</p> <p>【ボランティア実習（体験）の紹介】 学生の皆さんにららポート登録団体の活動や、市内高齢者施設からららポートに寄せられている情報を紹介し調整しました。</p>	
第2回目	ボランティア活動体験	
7月中旬から 9月中旬	<p>第1回目で調整した活動に各自で取り組んでいただきます。活動の分野は「環境保全」「高齢者支援」「子育て支援」「障がい者支援」と多岐にわたっています。</p>	
第3回目	ふりかえり	
9/19 (水)	<p>活動体験をふまえ、それぞれが活動する中で、感じたこと、気づいたことなどを学生の皆さんで語り合い、共有します。</p>	

*いこま寿大学

62歳以上の人を対象に、生駒市が設置する4年制の学びと交流の場です。一般教養学習、クラブ学習などを通して教養を高めながら友達の輪を広げ、生きがいを探求するとともに、地域の生涯学習のリーダー育成を目指します。
(※お問い合わせ先/生駒市生涯学習課)

みなさんも一歩を踏み出してみませんか！

このように、ららポートではボランティア活動をしたい方とボランティアの応援がほしい方との調整を行っています。
活動される方のご希望に沿うようお話しをうかがいながら活動の調整や情報の提供を行っています。
どうぞ、お気軽に、ららポートへお問合せください。



手話に最初に出会ったのは、子どもの頃。母に「手で話しているのよ」と教えてもらった。

それから30数年後、広報誌で手話講座開催の記事を見て、何気なく「やってみようかな」と軽い気持ちで申込み、キャンセル待ちの末、20回連続講座の途中から受講することになった。

仕事帰り、夜7時からの講座に間に合わず、3ヶ月間いつも途中からの参加だったが、手話の面白さにひかれ受講するのが楽しかった。指の組み合わせで文字や単語を表したり、動きが加わることで意味が変わっていく…。*ろう者とのコミュニケーション手段として、手話は奥深く、それが手話を続けている理由でもある。

*ろう者/聴覚障がい者の一区分。先天的または後天的な原因で聴覚を失った聴覚障がい者

講座終了後は、夜間に参加できる手話サークルかしの木に入った。サークルでは、ろう者と健聴者が共に手話や聴覚障がい者の様々な問題を学びながら交流している。活動は、毎週水曜夜7時から9時まで。その後、場所をファミリーレストランに移して10時頃までお茶を飲みながら交流するというのが常だった。手話通訳制度が無かった頃、ろう者は、病院での診察や公共施設での申請手続き、買い物など日常生活でのサポートを手話サークルに頼むしかなかった。そのためろう者の間では「水曜の夜にあのファミリーレストランに行けば、手話で話ができる」と次第に評判が広がり、情報交換を楽しみに市外からも集まってくるようになった。回を重ね、お互いの気心を知るようになると、むしろこの「9時からの本番」で学んだ手話が身についたと思う。

サークルでろう者と接することで、その生活や文化の一端にふれることがある。

ある時、サークルで親しくなったろう者が「息子の布団を買いたい」と言うので、買い物に付き添い、手話でお手伝いをしたことがある。それまでは、姑が孫のためにと買い物を全部していたので、自分では息子の買い物をしたことが無かったという。「自分で買い物ができた」と喜ぶのを見て、ろう者の生活について考えさせられたことが深く心に残っている。

ろう者と話をする際、「ろう者のために手話で伝え

なければ！」という気負いはない。コミュニケーションの場面では、小さな子どもにはわかりやすい言葉を選んだり、お年寄りにはゆっくりと大きな声で話すなど、相手によって伝え方を工夫するように、ろう者には手話という手段を使う。コミュニケーションで大事なものは、年齢や障がいの有無ではなく、相手の立場に立つということだと思う。

「筆談が聴覚障がい者すべてに通じるとは限らないんですよ」—はっきり聞こえないけど何となく聞こえる人には、言葉を紙に書いて伝えることができても、手話という独自の文法体系を持つ言語を使うろう者に必ずしも伝わるとは限らない。

ろう者のコミュニケーションには曖昧さが一切無い。Yes、Noがはっきりしている。健聴者が無意識に使う「考えておきます」や「検討します」は、手話では「する」のか「しない」のか、はっきり表現する必要があり、表情はとても大切だ。

ろうは、重度の障がいにも関わらず、外見からはわからないので理解されにくいのが、ろう者に気づいたら、気軽に身振りや表情で伝えてみて欲しい。手話を知らなくても通じるものはある。ろう者が、口の形から言葉を読み取ったり、ろう者同士では出ない声を出して答えてくれることもある。

たとえ、簡単な単語でも、手話で会話をしてもらおうと、ろう者は安心する。「あのお店は、手話でありがとうと言ってくれる！」と、仲間うちで話題になったこともあった。理解してもらえると嬉しいのは誰でも同じはず。今後も、ろう者と健聴者が気軽に交流できることをめざし、活動を続けていきたい。

最後に「これまで活動できたのは、家族の理解があったからこそと感謝している。今は、娘とふたりで旅行や買い物に出かけるのが一番の楽しみ。」と笑顔がこぼれた。



インタビュー：大西千鶴（ららポート ボランティアコーディネーター）

「環境フェスティバル」に参加しました

平成24年6月17日(日)、生駒市環境政策課主催の“生駒市環境フェスティバル”が、北コミュニティセンターISTAはばたきで開催され、ららポートからは、**環境分野で活動する6団体**がパネル展示などで活動を紹介しました。来場者の質問に丁寧に説明をされ、団体からは、「たくさんの市民が集まるこの催しは、自分たちの活動を知ってもらいたい機会になりました」との声がありました。



グリーンボランティア
「いこま宝の里」



生駒市地域ネットワーク活動
連絡協議会



いこま棚田クラブ



市民公益活動団体
「ほたる」



草刈りボランティアの会
竜田川流域の美しい街
まもり隊



フナッコクラ

* * * * *

ボランティア 情報

登録団体イベント募集

特定非営利活動法人 しあわせ羅針盤 楽しく簡単 お菓子作り教室

- ◆日時/8月24日(金)10時～13時(受付9時30分～)
- ◆場所/たけまるホール(旧中央公民館) 調理室
- ◆内容/夏野菜のケイクサレとひんやり米粉パンナコッタを作ります。食育についてのお話もあります。
- ◆対象/お友だちどうしや親子(小学生以上) 小学4年生以下は保護者同伴で参加してください。
- ◆定員/15人(先着順)
- ◆参加費/1グループ 3,000 円(ケイクサレ1本とパンナコッタ1ホール分の材料費)
- ◆申込み/FAX か電話で、代表者氏名、電話番号、参加人数を明らかにして、谷村淳子さんへ TEL・FAX/0743-73-0721(不在の場合は、留守番電話に必ず必要事項を伝言で残しておいてください)

登録団体イベント情報

子育て支援グループ「かるがもの会」 かるがもサマーイベント 2012

- ◆日時/8月25日(土)13時30分～15時の間で自由参加
- ◆場所/生駒市福祉センター フレンドルーム
- ◆内容/親子で遊ぶ歌や手遊び・製作・パネルシアター・バルーンアートなど
- ◆対象/市内に住む就学前の親子
- ◆参加費/無料・申込み不要
- ※駐車スペースが限られていますので、なるべく送迎バス(無料)をご利用下さい
- ◆問合せ/安井純子さん TEL/0743-77-8545



登録団体イベント情報

ネットワーク生駒 悪質商法の被害にあわないために

- ◆日時/9月8日(土)10時～12時
- ◆場所/ららポート研修室
- ◆内容/消費生活センター職員による出前講座～安全・安心に暮らせる地域づくりを～
- ◆対象/市民
- ◆定員/40人(申込順)
- ◆参加費/無料
- ◆申込み・問合せ/往復はがき、FAXか電子メールで参加者の住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号を書いて、9月1日(土)(必着)までに安藤豊さんへ 〒630-0248 喜里が丘1丁目 10-5、 TEL・FAX/0743-75-3426、 e-mail : a.toyo333@kcn.jp

ボランティア募集情報

第16回 生駒・高山 お茶会と竹あかしの夕べ ボランティアスタッフ募集

- ◆活動日/10月5日(金)～8日(祝・月)
- ※1日でも可
- ※活動時間は、日によって異なります
- ※事前説明会(9月19日(水)14時:市役所)
- ◆活動場所/高山竹林園
- ◆活動内容/ろうそくの点灯、交換、後片付け。竹の造形物の設置、後片付け等。その他行事の準備・サポート
- ◆募集締切り/8月24日(金)
- ◆問合せ/生駒市役所 経済振興課 商工観光係 TEL/0743-74-1111(内線323)

「1%支援制度シンポジウム生駒発！参画と協働のまちづくり」へのご参加ありがとうございました！

市民活動団体の財政的支援の拡充を図ること、また、市民の皆さんが市民活動団体が提案する事業を直接選択することにより、市民活動への理解と関心を高めていただき、さらなる市民参画と市民活動の促進を目指す「生駒市民が選択する市民活動団体支援制度」が昨年からスタートしました。

2年目の今年は、18歳以上の市民の皆さんが、支援したい団体事業を選択する期間（6月29日（金）から8月10日（金））にあわせ、平成24年6月30日（土）生駒市コミュニティセンター文化ホールで、「1%支援制度シンポジウム 生駒発！参画と協働のまちづくり」を開催しました。

第1部 記念講演

「参画と協働から生まれるまち」

なかがわいくお

帝塚山大学大学院教授の中川幾郎さんより、行政サイドで整えられる制度と求められる市民力、両輪が機能（協働）することで生まれるまちの像から、その必要性をお話いただきました。



帝塚山大学大学院教授
中川幾郎さん



138NPO 事務局長
星野 博さん

第2部 先進地からの報告

「NPOが支える1%支援制度 一宮市の場合」

いちさんほち

138NPO～一宮の市民活動育ちあいネット～事務局長の星野 博さんより、NPOが「1%支援制度」運用の一翼を担っている一宮市の事例をNPOの視点でご報告いただきました。



第3部 「ともに作り上げる制度」

生駒市市民活動団体支援制度審査会委員より、制度運用に関する解説が各委員の専門性に基づいて行われたあと、会場からのご質問についてお答えいただき、会場の皆さんと一緒に支え制度についての考えを深めました。

参加者の声

市民の皆さんからは「市民活動に興味を持った」「今後の生き方の中で参考にしたい」、支援対象団体からは「みんながより幸せにパワーアップしていけるよう制度を育てていかなければ」といった前向きなお声が寄せられ、「参画と協働によるまちづくり」へとつながる意義深いシンポジウムとなりました。

また、市民の皆さんや支援対象登録団体だけでなく、支援制度を実施している自治体の市川市（千葉県）、一宮市（愛知県）、佐賀市（佐賀県）、和泉市（大阪府）をはじめ、守山市（滋賀県）、浜松市（静岡県）等、県外からも多くのご参加をいただきました。

たくさんのご参加をいただき、ありがとうございました！

編集後記

今回ボラボーの取材で、手話サークルかしの木の馬場さんから「聴覚障がい者すべてに筆談が通じるとは限らない」とお聞きしてビックリ！勝手な思い込みで、聴覚障がいの方に筆談でならお伝えできると思っていました。改めて「相手の立場に立つ」大事さを教えられました。〈大〉

■生駒市市民活動推進センター ららポート

〒630-0257 奈良県生駒市元町1丁目7番6号

TEL:0743-75-6000 FAX:0743-75-0151

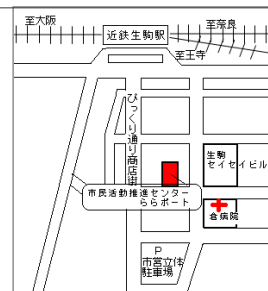
e-mail: lalaport@city.ikoma.lg.jp

開館日時 月曜日～土曜日 午前9時～午後5時

休館日 日曜日・祝日・年末年始

※オストメイトトイレがあります

※公共交通機関でお越し下さい



●ららポート登録団体 62団体 [構成人数 2,009人] (7月1日現在)